



よろず健康相談事業報告

平成25年度

よろず健康相談事業では、平成24年度5月より、福島第一原子力発電所事故により帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域の市町村住民の方々を対象に、主に集団検診に併せて個別健康相談を実施しています（福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、放射線災害医療センター及び国立病院機構災害医療センターとの共同事業）。

放射線健康リスクと隣り合わせの福島で「よろず健康相談」を実施して2年。健康不安や避難に伴う様々な困難に直面する人々に寄り添いつつ、これまで災害医療に関わりの薄かった医療者が放射線災害の実態に触れ、福島の教訓を受け継ぐ貴重な機会として教育にも活用してきました。相談員として全国から参加してくれた医療者・学生は582名（のべ人数。内センター担当405名。）を超え、参加の度に現地の変化を肌で感じる生きた学びの場としても機能しています。

今年度の実績は、実施回数158回（内センター担当分93回）、相談件数1699件（内センター担当分1080件）となっています。

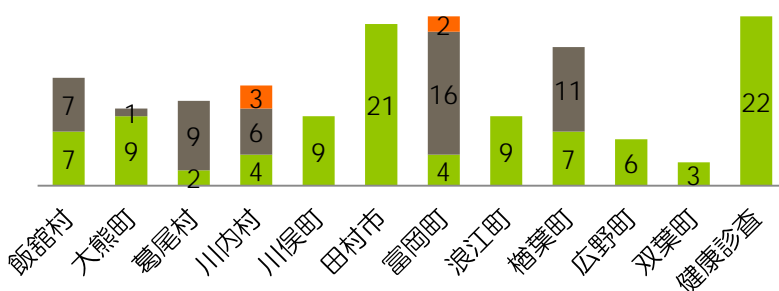
実施市町村

今年度は、飯舘村、大熊町、葛尾村、川内村、川俣町、田村市、富岡町、浪江町、楡葉町、広野町、双葉町の集団健診及び健診結果返却会に併設して実施しました。



①市町村別実施回数

■ 集団健診 ■ 結果返却会 ■ 乳がん検診



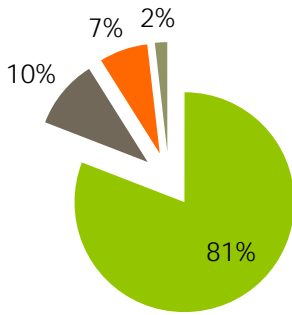
（全実施回数158回分のグラフ。内センター担当分は93回。）

※「健康診査」とは、福島県立医科大学が福島県からの委託を受けて、避難区域等の住民の方、および「基本調査」の結果、健康診査が必要と認められた方を対象に行っているものです。

平成25年8月8日現在。
（福島県ホームページより）



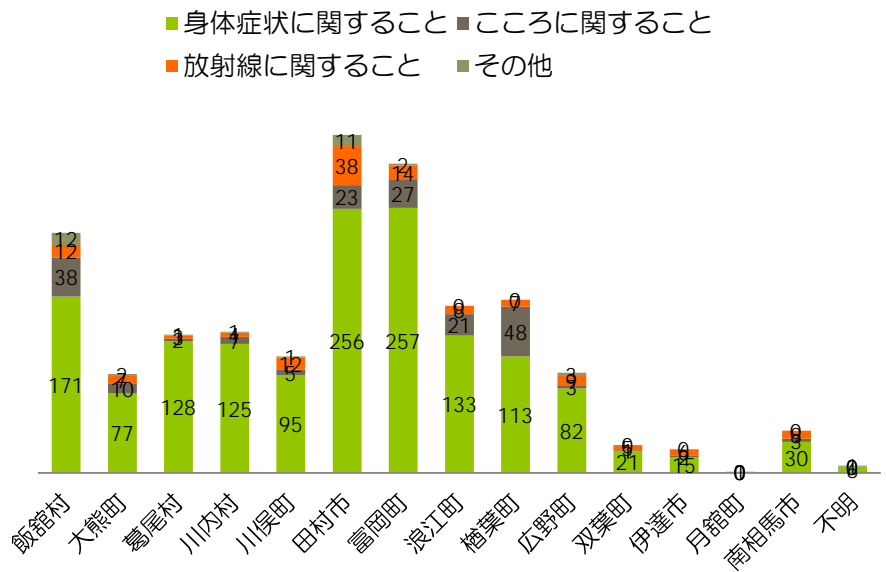
②-1 相談内容の内訳



相談件数 1699 件分（内センター分 1080 件）。

⇒②-2「健康診査」への来場分を含む。

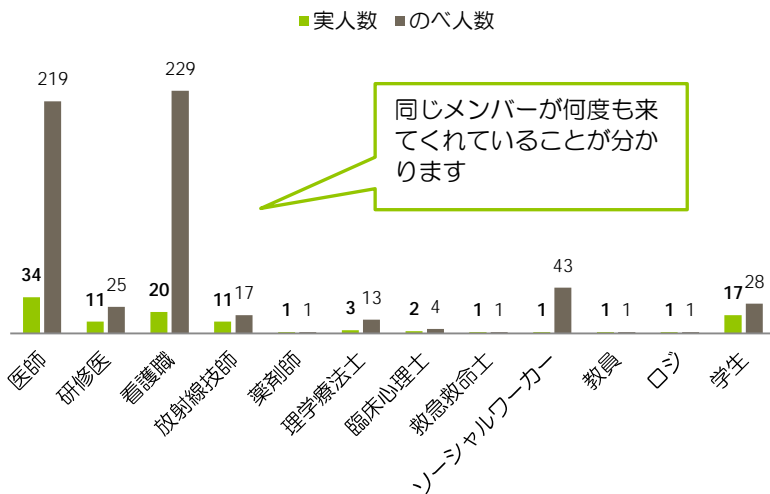
②-2 市町村別相談内容内訳



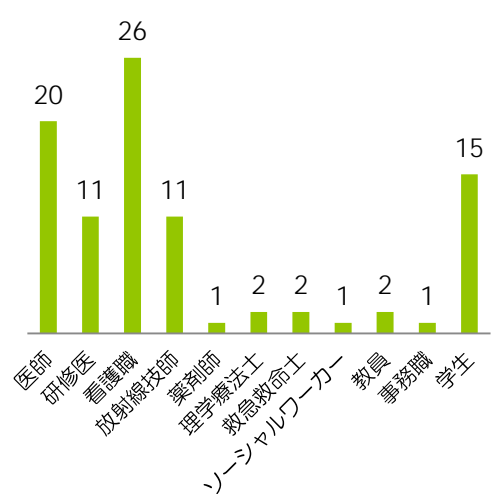
参加者

よろず健康相談事業に参加した、①職種別参加人数、②事前研修受講者数、③所属一覧は以下の通りです。

① 職種別参加人数



② 事前研修受講者数



①実人数103名、のべ人数582名（内センター分=実人数94名、のべ人数405名）のグラフ

②事前研修受講総数=92名、実施回数13回（内1回は弘前大での出前講座）+福島災害医療セミナー4回+学生のための福島災害医療セミナー2回

③ 所属一覧

■ 医療者

【福島県内】福島県立医科大学、桜ヶ丘病院、福島市消防本部（福島市）、会津医療センター（会津若松市）、星総合病院、星ヶ丘病院（郡山市）、特別老人ホームせいざん荘、かしま病院（いわき市）、塙厚生病院（塙町）、公立岩瀬病院（須賀川市）、二本松市役所（二本松市）

【東北】弘前大学、鳴海病院、弘前保健所（青森）市立横手病院（秋田）

【関東】茨城県立中央病院、筑波大学、水戸済生会病院（茨城）、済生会宇都宮病院（栃木）、渋川総合病院（群馬）、白峰クリニック（埼玉）、横浜市立みなと赤十字病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、神奈川県看護協会、聖マリアンナ医科大学病院、平塚市民病院、横須賀市立市民病院、さいとう整形クリニック（神奈川）、自衛隊中央病院、公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター、河北総合病院、日本医科大学付

属病院、東京大学病院、災害看護支援機構、あべ整形外科クリニック（東京都）

【中部】新潟県立新発田病院（新潟）、藤田保健衛生大学病院、国立長寿医療研究センター（愛知）

【関西】京都市立大学病院、京都第一赤十字病院、丹後中央病院、京都大学医学部附属病院（京都）、近畿大学（大阪）、兵庫県立医科大学病院（兵庫）

【中国】徳山中央病院（山口）

【九州・沖縄】長崎大学病院（長崎）

■学生

【関東】千葉大学

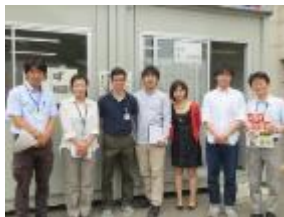
【関西】大阪大学

【中国】島根大学、広島大学

【四国】香川大学

【九州・沖縄】長崎大学

【海外】コロンビア大学、マウント・サイナイ大学（アメリカ）



参加者の感想

学生さん より

体調不良を自覚しながらも何科を受診したらよいかわからない、医療機関に不信感がある、病院に行くほどではないという理由から医療機関にかかっておられない方が今回の健康相談に来られる人の中でも多いと感じました。放射線被害では、安全だとわかっているにもかかわらずやはり不安ということで不安や心配の気持ちをまず受け止めることが何よりも大切だと思いました。震災から2年と9か月、放射線の心配より生活での健康問題への質問が多かったですが、原発で苦しむ人はたくさんいらっしゃるし、継続的に見守ることが大切だと感じました。

よろず健康診断という、多岐にわたる相談のなか患者さん自体をみるという、医療を行う上で大切なことを改めて学びました。最初に訴えていた主訴とは、別にもっと困っている症状が隠れていることがありました。それを、見逃さないために、患者さん全体を見る、open question を行うのが大切であったと感じました。思っていたよりも、放射線に関する相談が少ないと感じましたが、0ではないことから、放射線に関する正しい知識を被相談者側が持たなければ、福島よろず健康相談は成り立たないと思います。放射線に関する知識がほぼないに等しい自分が、よろず健康相談をするにあたり講義をしていただき、大変勉強になりました。

研修医の 先生より

医師より

原発事故のこと、事故後から現在までの福島の状況のことなどを、ほんの一部ではあると思いますが、知ることができてとてもよかったです。また、現在もたくさんの方が避難を強いられているという現実を目の当たりにし、震災から2年がたち、震災のこと、福島のことをほとんど気かけず生活をしてきた自分を恥ずかしくも思いました。よろず健康相談で、避難している方々の生の声を聞いたのは何にも代えがたい貴重な体験でした。話を聞くだけしかできない自分に歯がゆさを覚えながら、ある相談者に「先生たちに話しをするだけでもすごく楽になる」という言葉をもらい、逆に少し救われる思いがしたのがとても印象的です。今回の原発事故に関しては、放射線の影響は非常に少なく、過度な心配や不安を感じる必要はないこと、むしろそういった過度な不安、心配が悪影響を及ぼしていることがよくわかりました。その一方で、故郷を追われ、実際に今も避難を強いられている人がたくさんいることもわかりました。それらも踏まえると、たった1回の事故で、故郷を奪ってしまう原発というものは、なくしてしまった方がいいのかなとも少し思いました。

★詳細はHP <http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/ecdm/index.html> をご覧ください。

【お問合せ先】



ecdm@fmu.ac.jp

福島県立医科大学 災害医療総合学習センター